
若手研究者の力を活かすために

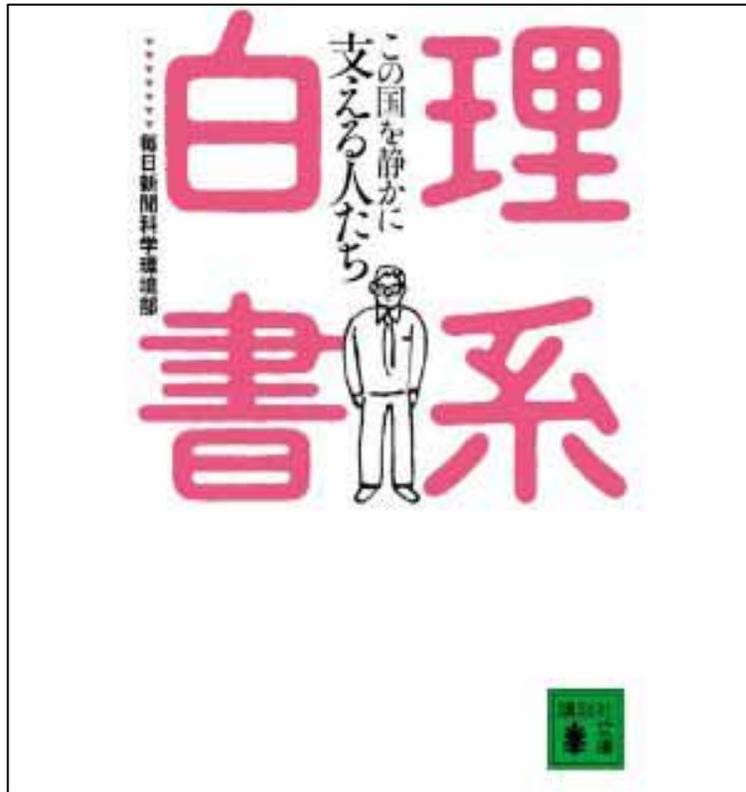
科学・技術ミーティング in 高松
(平成22年8月29日)

徳島大学 疾患ゲノム研究センター 講師
新田 剛



「理系人への応援歌」

- 若手研究者の現実
過酷な労働、経済的困窮、就職難
- 女性研究者の抱える問題
人事における差別、結婚、出産、育児
- 文系優位の社会、理系人の待遇は悪い？
- 深刻な科学離れ、学力低下



毎日新聞科学環境部
講談社(2003)
(2002年1月から2003年4月まで
毎日新聞科学面に連載)

私の経験

- 大学院生のひとりとして取材を受けた。
- ユニークな実例として？(進路、結婚、育児、etc.)

若手研究者の力を活かすために

1. 現状の確認
2. 科学・技術政策における取組
3. 大学院生やポスドクとしてできること
(個人のライフスタイル、キャリアパスの観点)

1. 若手研究者(大学院博士課程～ポスドク)の現状の確認

過酷な労働(研究活動の時間(平均))

博士課程 63時間/週

ポスドク 65時間/週

(平成15年版 科学技術白書)

私の経験(博士課程)

•朝7時から夜12時まで研究

•研究に没頭している時は苦にならない

経済的困窮

奨学金(日本学生支援機構)の返還

大学院生の63%がアルバイトをしている

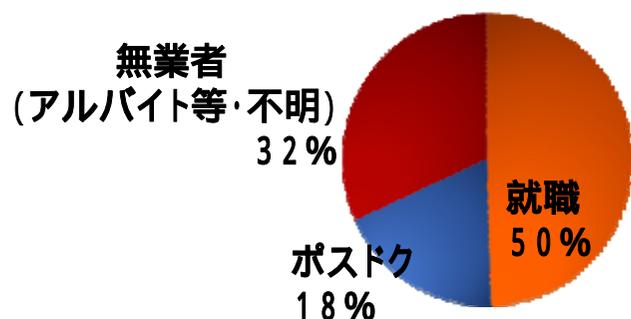
(平成15年版 科学技術白書)

医学系博士4年間で約600万円

(返還免除あり)

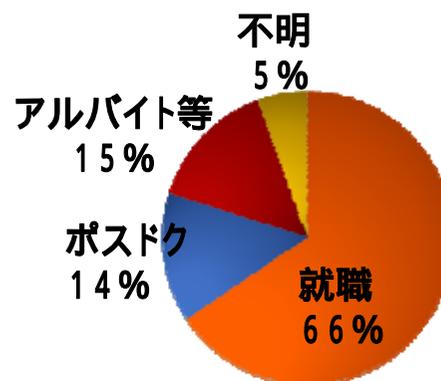
就職難

博士課程修了者の進路



2000年度

(科学技術・学術審議会
人材委員会 第一次提言 2002年)



2007年度

(平成22年版 科学技術白書)

博士の20～30%は
まともな職がない

博士の就職難

国費を投入して育成した人材を活用できていない…

- ・昔から … 無業者の割合 (37% (1996年)、41% (1999年)、32% (2002年))
(科学技術・学術審議会 人材委員会 第一次提言 2002年)
- ・日本に特徴的 … 無業者の割合 (米国では4% (1990-1996年卒))
(NFSの調査 1997年)
- ・大学教員枠の減少、企業への就職が少ない

2. 科学・技術政策における取組

- ・人材育成(「産業人材育成パートナーシップ」「イノベーション創出若手研究人材養成」)
- ・経済的支援(学振特別研究員、RA、TA、etc.)

私の意見

- 博士の就職難は、日本の大学や企業の雇用慣行や社会システムに根ざした現象かもしれない。
- 科学・技術政策だけでは限界があり、教育や労働に関わる政策の大転換が必要な時期に来ているのではないか？

政権交代の
真価が問われる

3. 大学院生やポスドクとしてできること

- ・実力主義と競争の世界であるという認識と覚悟

私の実感

- ・最近の博士院生

覚悟と実力のある大学院生(デキる、真の理系人間)

公的支援が有効



中間層(覚悟はしていたが、自分の実力や将来性に不安)

公的支援が有効
教育・指導が必要

覚悟も実力もない大学院生(自分探し? モラトリアム?)

支援・指導の
効果は疑問

- ・究極的には自己責任、努力は大事

しかし...

本人はもちろん、
指導する側、
政策に関わる側にとっても

- ・進路変更の可能性を含めてキャリアパスやライフスタイルを考えることも重要

- ・意識変革の必要性

~~ドロップアウト~~

ドロップイン

(Steve Jobs スタンフォード大学卒業式でのスピーチより)

「もし私が **ドロップアウト**(退学) していなかったら、

あのカリグラフィのクラスには **ドロップイン**(寄り道) していなかった。」

集え箱根!! 50年のキセキ

～世代を越えて考える、生命科学の歴史と未来～

生命科学 夏の学校

生化学若い研究者の会 第50回

50回

2010.9.3(金)～9.5(日)
箱根高原ホテル(神奈川県箱根町)
※小田原、箱根湯本からバスまたは新箱根から直行バス



生化学若手

●詳細・参加申し込みは[夏の学校]ホームページにて 2010年7月23日まで (随時なくなり次第締め切ります。)

<http://www.seikawakate.com>

シンポジウム 「科学への関心を社会へ」

- 子どもにとっての理科、市民にとっての科学リテラシー、そして専門家にとっての科学
……小宮康夫先生
国立環境研究所環境教育推進部環境教育センターシニアアナリスト
- 朝のための科学リテラシー？
朝のための科学コミュニケーション？
……小林徳司先生
(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)

プレナリーセッション (特別講演)

- 生命の定義・生命の起源
……大島厚彦先生(共和化工 微生物研、当会夏の学校現代校長)
- 遺伝子改変マウス作製のすすめ
……辻富洋一郎先生(東京大学医学部研究所)
- ヘビ毒とADAMプロテアーゼ
……瀧澤洋子先生(京都大学再生医科学研究所)
- オリジナル化学プロブの開発による新しい生体分子イメージング
……浦野泰照先生(東京大学 大学院医学系研究科)

サイエンティフィックフォーラム

1. 生命現象の理解

- 固執するATP合成酵素の構造と制御
……吉田隆右先生(京都産業大学 総合生命科学研究部)
- シグナル分子による細胞形態形成の調節
……橋本辰男先生(大阪大学 大学院理学研究科)
- スピンドル研究130年、私のスピンドル研究わずか13年
……五島剛太先生(名古屋大学 大学院理学研究科)

4. 脳・神経の理解

- 複雑な神経システムへの挑戦
……伊藤正明先生(理化学研究所 脳科学総合研究センター)
- 高等脊椎動物の高次脳機能を支えた分子進化
……黒川重夫先生(理化学研究所 脳科学総合研究センター)
- 広い視点から脳を調べるシステム・ニューロバイオロジー：ハエの脳とヒトの脳を比較して
……伊藤啓先生(東京大学 分子細胞生物学研究所)

2. 生命科学を革新する技術

- 細胞のメソワールドを1分子連続で調べる
……植見明弘先生(京都大学 再生医科学研究科)
- Science knows no borders
……岩田雄先生(京大 大学院医学研究科)
- 相互作用解析とは何か？～これまでとこれから～
……橋本大介先生(GEヘルスケア・ジャパン株式会社)

5. 生命科学の新しい潮流

- システムバイオロジーへの道のり
……北野宏明先生(ソニー-CSL/SBI)
- 見る生物学から作る生物学へ
……上田卓也先生(東京大学 大学院新領域創成科学研究科)
- 私がシステム生物学を始めた3つの理由(わけ)
……皇田真也先生(東京大学 大学院理学系研究科)

第50回 記念企画

OB/OGイベントセミナー
パネルディスカッション

『IQ89 その時年長組が動いた』
代表 兼玉田正文先生(東京農工大学 大学院工学研究科)
『情報過多時代のオリジナルな研究とは？』
講師: 生化学若い研究者のOBOG
代表 鈴木和男先生(千葉大学 大学院医学研究科)

生命科学 夏の学校とは？

「夏の学校」は、生命科学分野の研究者を目標とする大学院生を中心に、学部生・ボスドク・企業の研究員まで、全国各地から毎年100名以上が参加する合同型のサマースクールです。夏には先生方に最先端の研究をお話しいたいただき、夜には先生方と交えての研究ポスター発表、懇親会を行います。同じ生命科学研究者たちが夜遅くまで大いに語り合う、学生とはひと味違った魅力がここにはあります。

私が経験したドロップイン

生化学若い研究者の会 (生化学若手の会)

- 生命科学系の大学院生を中心に構成
- 分野横断的
- 全国各地でシンポジウム等の活動
- 若い研究者のネットワーク作り

- シニア研究者との意見交換の機会
- 多くの友人、人脈

様々な異分野にドロップインすることで、研究活動にも人生にも新たな道が生まれる。

理解と支援を！